

杉山代表の



言葉の栞〈第3集〉

昨年11月号に引き続いて、介護や医療のこと、私の信念、時には詩などを、訪問診療中の患者さんの要望に応じて書き続けました「言葉の栞 第3集」をお届けします。

【私の道標^{みちしるべ}】

*私が著書にサインする時に添える言葉として、「おもしろい」、「前向きに!」、「原点を大切に!」があります。人は長い人生をさまざまな体験を積み重ねながら送っていきませんが、とまどい・混乱・挫折などがあっても、しっかりした考え方が根底にあれば、きっと乗り越えることができるでしょう。私の人生の指針が上記の3つの私の道標です。2024.6.18

*「おもしろい」

おもしろいは相手の気持ちや立場を深く理解することから生まれます。自分が相手の立場であつたら自分の言動をどう感じ、どう受け止めるかを考えた上で、自分の立場に戻って行動をする姿勢が基本です。そのためには、相手を深く理解することが必要です。2024.7.2

*「前向きに!」

たとえ制度や慣習、常識では認められなくても、本当に必要で実践しなければならないことはたくさんあります。制度がないからできないとあきらめるのではなく、本当に必要なことはいずれ社会が認めてくれると信じて、前向きに実践することが大切です。私が試みた自己注射治療・家庭透析・訪問診療等は最終的には制度として認められました。2024.7.16

*「原点を大切に!」

その後の人生に大きな影響を与える体験(人生の原点)を語ることのできる人が少なくないと思います。ある人に出会ったこと、身震いする

ほどの感動を覚えたこと、逆につらい体験をしたことなど、その体験がなかったら今の自分はないと言い切る人もいます。私の原点は、大学闘争やサリドマイド被害者などと接したことが、今日まで約50年間地域医療に取り組んできた原点であつたと思います。2024.7.30

【介護について】

*「芸は介護を助ける」

「芸は身を助く」という言葉があります。一芸を身につけておくといざというとき生計を助けることがあるという意味です。在宅医療などの現場では、介護に混乱が起これていても、趣味や様々な生活体験をもつ人には、その話題を取り上げると落ち着くことがしばしばです。まさに、「芸は介護を助ける」と言えるでしょう。2024.4.9

*「障害を持つということは、どういうこと？」

つり橋を渡るとき、足がすくんで、怖いと感じる人は多いでしょう。また、30cm幅の道を平地で歩くのと、同じ幅の塀を歩くのでは怖さが違うと思います。障害を持つということは、鉄橋がつり橋になり、平地が高い塀になると同じことなのです。2024.11.19

【医療について】

*「聴覚などの感覚は最後まで残る」

脳死の判定方法のひとつに聴覚反応があります。強い音を聞かせても脳波に反応がなかったとき脳死と判定する根拠のひとつとなるものです。逆に言えば、脳死になるまでは聴覚は反応していることになります。つまり、聴覚は最後まで残っているのです。昏睡状態であっても、家族のなじみの声が聞こえることがご本人の状態を安定させることになるのです。2024.10.22

あとがき

編集委員
(山下・小林・石毛・伊藤)

年末年始、近県の実家に介護応援に行き、いつもより長く滞在しました。そのせいか軽い介護ウツになりました。幸いなことに、ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービスのスタッフ等、プロの皆さんに助けられました。相談できる人、支援してくれる人がいてくれるって有難いです。周りに頼りましょう。(伊藤)